

消費者動向調査 No.101

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 19 年 10 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 490 人、回答率 98.0%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	11.7
30代	18.2
40代	33.4
50代	27.9
60代	8.8

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	41.6
妻だけ	12.3
両方	46.1

西日本シティ銀行

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

[調査結果本文]

最近の日本銀行の発表によると、景気の現状は「緩やかに拡大している」と示しています。一方、米国の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）の焦げ付き問題の影響による米国景気の減速や円高、原油価格の高騰等景気の先行に不透明感もでてきています。

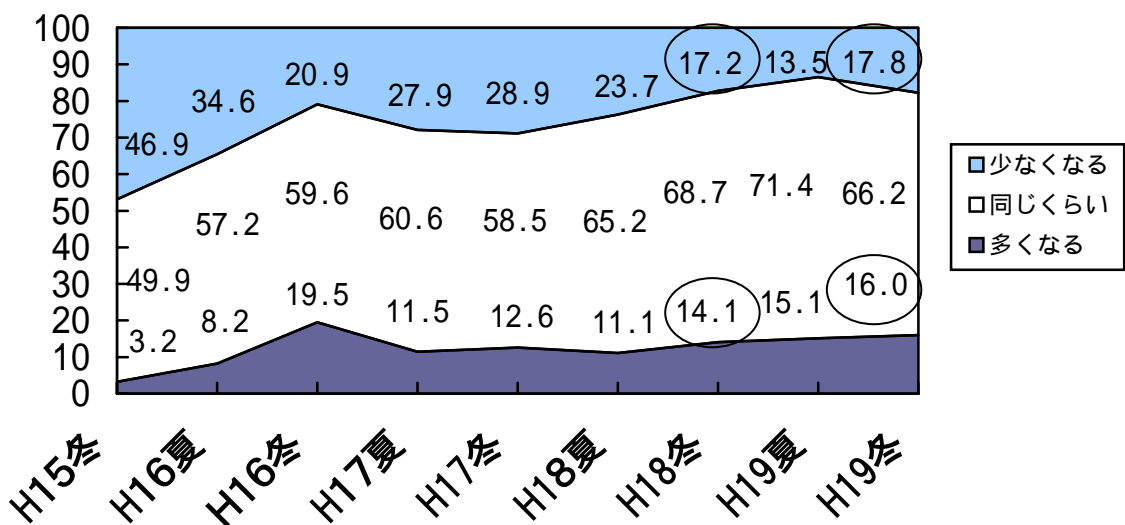
このような環境の中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、昨年の冬と比較して「多くなる」が 1.9 ポイント増加。「少なくなる」も 0.6 ポイント増加。

冬のボーナスが昨年より“多くなる”と予想する割合が 1.9 ポイント増加。“少なくなる”も 0.6 ポイント増加。ボーナスが多くなるとの予想はここ 2 年増加傾向である一方、ボーナスが少なくなるとの予想が平成 17 年冬からの減少傾向から、今回増加に転じている。

[グラフ 1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]

(単位：%)



冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で今回 5 割を超えた。2位は「生活費の補てん」で 33.4%。

冬のボ - ナスの支出予定トップは「貯蓄」で 51.0%。平成 17 年冬から少しづつではあるが割合が増えており、今回 5 割を超えた。2 位は 33.4%で「生活費の補てん」。今回、暖冬のためか「衣料品等の購入」が昨年冬に比べ 2.7 ポイント減少し、3 位から 6 位に後退。

[表 1：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3 つまで）]

（単位：％）

項目	全体
貯蓄	51.0
生活費の補てん	33.4
子供の教育費	28.1
住宅ローンの返済	28.1
旅行・レジャー	26.4
衣料品等の購入	24.4
お歳暮	19.5
自動車（ローン返済も含む）	18.6
耐久消費財の購入	10.0
両親・子供への小遣い	10.0
クレジットの返済	9.6
その他	12.1

[表 2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（時系列比較）]

（単位：％）

	H16 冬	H17 冬	H18 冬	H19 冬
貯蓄	55.7	44.3	46.8	51.0
生活費の補てん	31.7	33.3	33.2	33.4
子供の教育費	31.7	30.3	27.1	28.1
住宅ローン返済	30.0	25.8	24.4	28.1
旅行・レジャー	21.7	26.9	26.9	26.4
衣料品等の購入	26.1	27.1	27.1	24.4

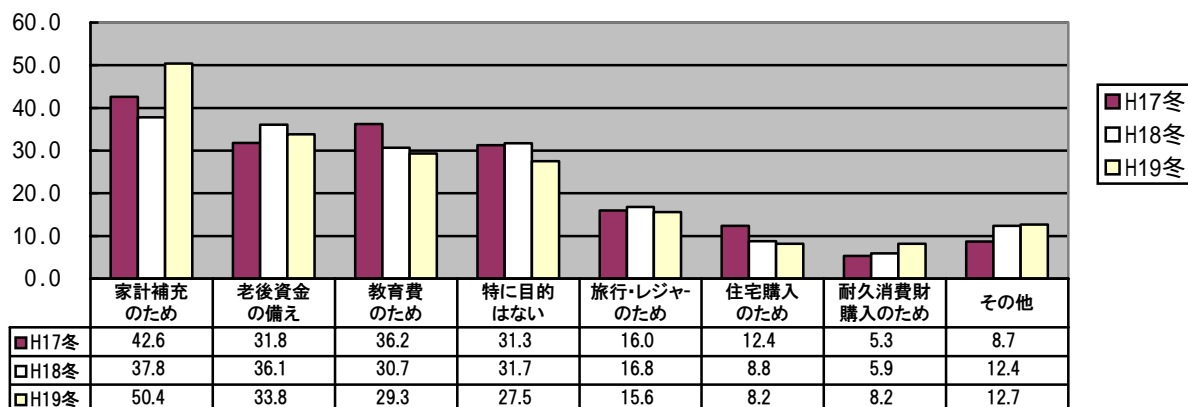
6 位：お歳暮

◆ボーナスを貯蓄する目的のトップは、「家計補充のため」で5割を超えた。次いで「老後資金の備え」が33.8%で2位。

“冬のボーナス貯蓄の目的は何か”の問いに「家計補充のため」が今年の冬に比べ12.6ポイント増加し、平成15年の冬以来で5割を超えトップ。次いで「老後資金の備え」が33.8%で2位。景気は緩やかに拡大していると言われるものの、主婦の実感としては、税負担の増加やガソリン価格の上昇等の影響のためか、将来の生活に不安を抱えているようだ。

[グラフ2：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]

（単位：％）



[表3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（年代別）]

（単位：％）

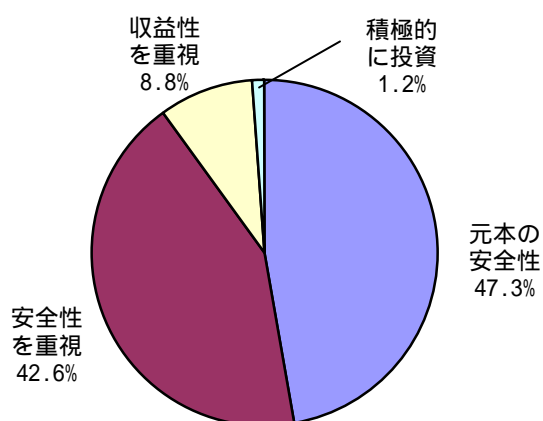
	全体	20代	30代	40代	50代	60代
家計補充のため	50.4	64.9	48.3	43.6	57.4	39.5
老後資金の備え	33.8	12.3	13.5	29.4	54.4	55.8
教育費のため	29.3	28.1	47.2	46.6	6.6	0.0
特に目的はない	27.5	31.6	23.6	26.4	27.2	34.9
旅行・レジャーのため	15.6	19.3	13.5	10.4	17.6	27.9
住宅購入のため	8.2	12.3	18.0	8.6	1.5	2.3
耐久消費財購入のため	8.2	10.5	6.7	8.0	11.0	0.0
その他	12.7	8.8	13.5	11.0	14.0	18.6

◆冬のボーナスを貯蓄する場合「元本の安全性を重視」が 47.3%で1位。
「収益性より安全性を重視」を合わせるとおよそ9割の人が安全性を重視。

冬のボーナスを貯蓄する場合、「元本の安全性を重視したい」が 47.3%で 1位。「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」も 42.6%の割合を占めており、およそ9割の人は安全性に重点をおいているようだ。

[グラフ 3 : 冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]

(単位：%)



[表 4 : 冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは (年代別)]

(単位：%)

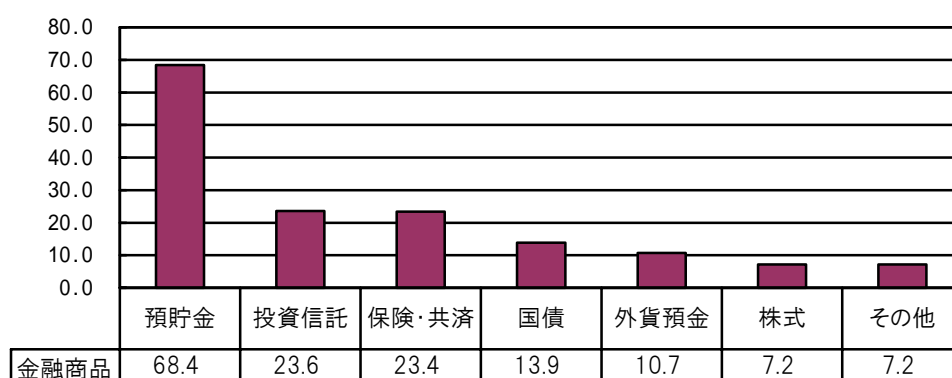
	全体	20代	30代	40代	50代	60代
元本の安全性を重視	47.3	35.7	46.1	49.1	45.2	65.1
収益性より安全性をより重視	42.6	41.1	39.3	42.9	48.9	30.2
安全性より収益性をより重視	8.8	19.6	12.4	7.4	5.2	4.7
積極的に投資	1.2	3.6	2.2	0.6	0.7	0.0

◆関心がある金融商品は68.4%で圧倒的に「預貯金」が1位。2位は「投資信託」で23.6%。ほぼ同率で3位「保険・共済」。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が68.4%でダントツの1位であった。2位は23.6%で「投資信託」。ほぼ同じ割合で「保険・共済」が23.4%で3位。以下「国債」、「外貨預金」、「株式」。年代別に見ると20代の「外貨預金」、60代の「国債」が平均の2倍以上の割合になっている一方、20代の「国債」、60代の「外貨預金」は平均を大幅に下回っており特徴的である。

[グラフ4：どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)]

(単位：%)



[表5：どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)(年代別)]

(単位：%)

	全体	20代	30代	40代	50代	60代
預貯金	68.4	66.7	70.8	66.9	67.6	74.4
投資信託	23.6	19.3	20.2	28.2	26.5	9.3
保険・共済	23.4	14.0	22.5	23.9	28.7	18.6
国債	13.9	5.3	10.1	15.3	13.2	30.2
外貨預金	10.7	22.8	11.2	10.4	8.1	2.3
株式	7.2	8.8	10.1	4.3	6.6	11.6
その他	7.2	5.3	7.9	6.7	8.8	4.7

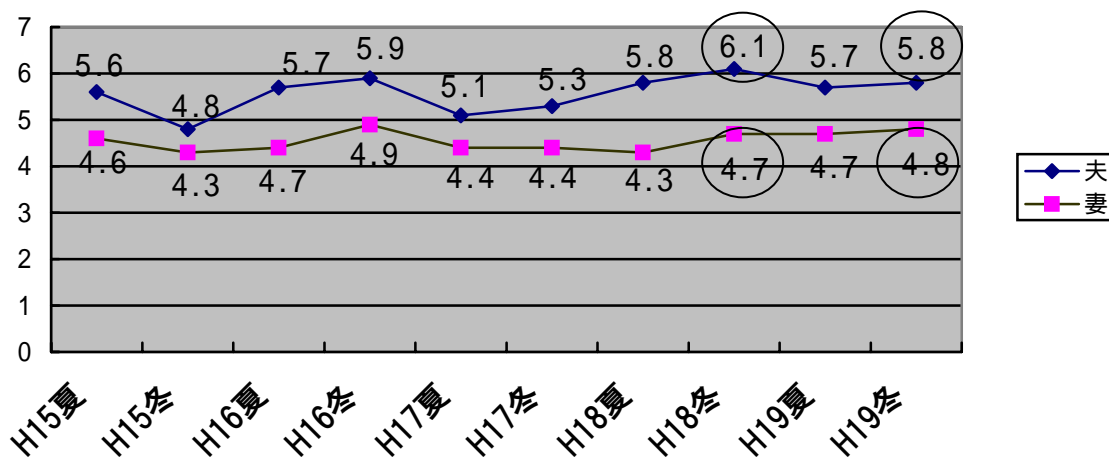
冬のボーナス、自由に使える金額は、昨年冬に比べて夫は3千円ダウン。妻は1千円アップ。

冬のボーナス、妻が自由に使える金額は平均4.8万円(昨年冬比+0.1万円)、夫が自由に使える金額は平均5.8万円(昨年冬比-0.3万円)。横ばい基調であるが、少しでも節約しようということか、夫にはきびしい査定となったようだ。

[グラフ5：自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位:万円)

〈ピーク〉
夫 : 9.3万円(H9)
妻 : 7.9万円(同)



[表6：妻と夫が自由に使える額]

(単位：%)

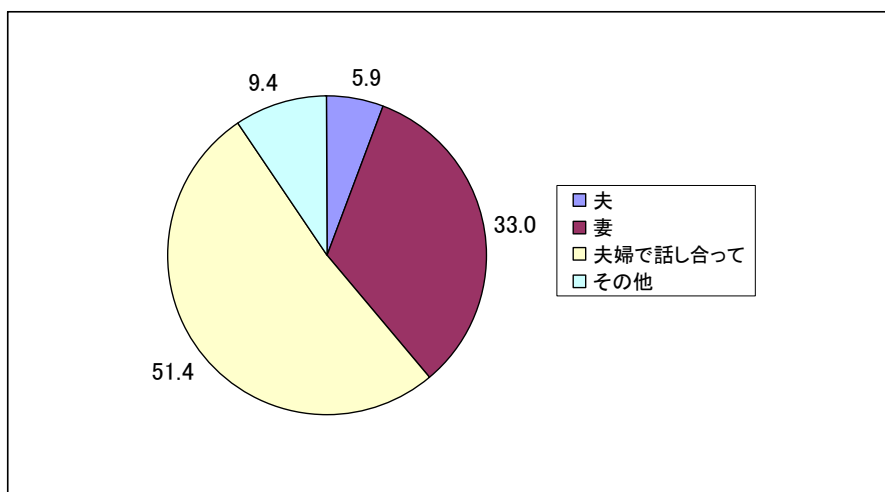
	妻	夫
1万円未満	12.3	8.0
1~3万円未満	36.0	25.4
3~5万円未満	26.3	31.1
5~10万円未満	15.6	22.4
10~20万円未満	7.2	10.0
20~30万円未満	1.9	2.6
30~40万円未満	0.4	0.2
40~50万円未満	0.2	0.0
50万円以上	0.0	0.2
平均	4.8万円	5.8万円

ボーナスの使いみち、決定権は「妻」が3割。

“冬のボーナスの使いみちを主に決めるのは誰か”の問いに、「夫婦で話し合って」が半数を占めたが、「妻が決める」が3割を超え、「夫が決める」は5.9%であった。家計の実権は妻がにぎっているところが多いようだ。

[グラフ6：冬のボーナスの使いみちを主に決めるのはだれですか]

(単位：%)



この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺 まで
TEL 092-461-1869